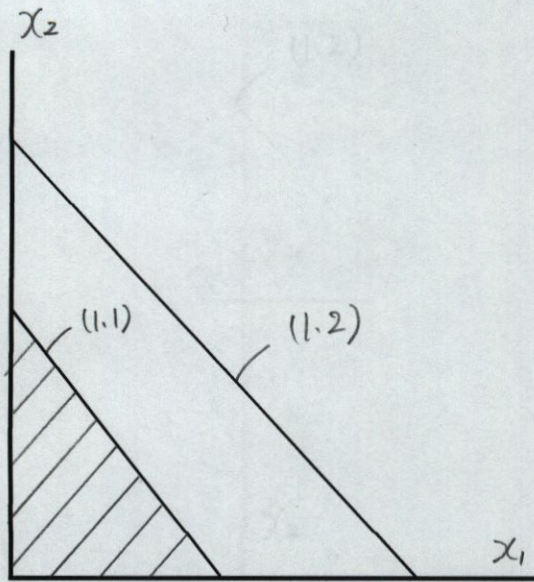
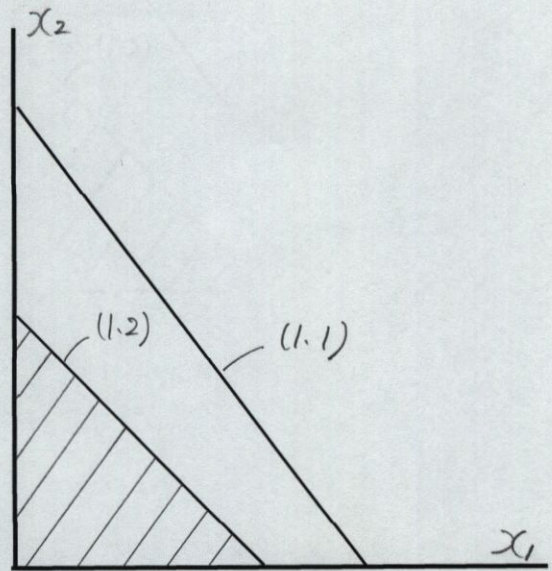


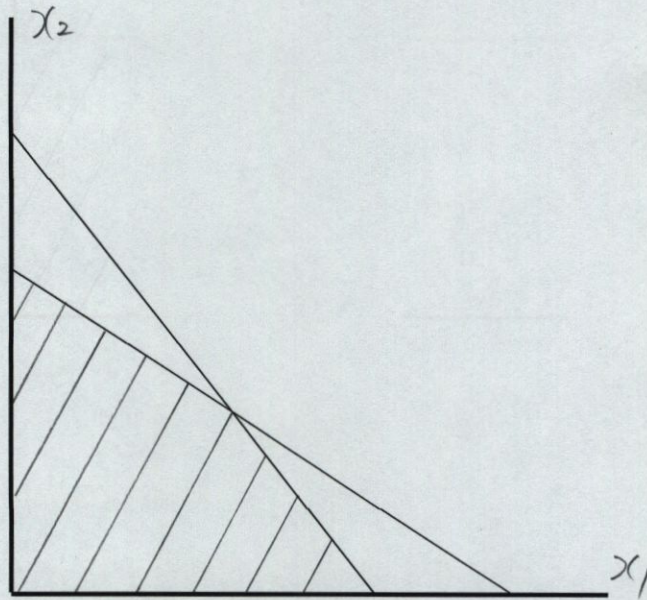
第1章



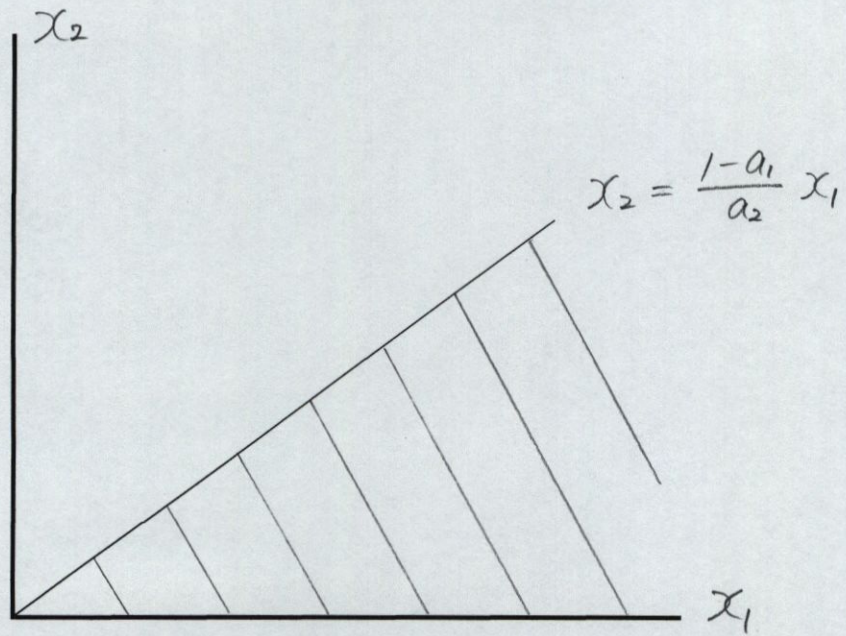
<図 1.1.a : (1.1) が効く場合>



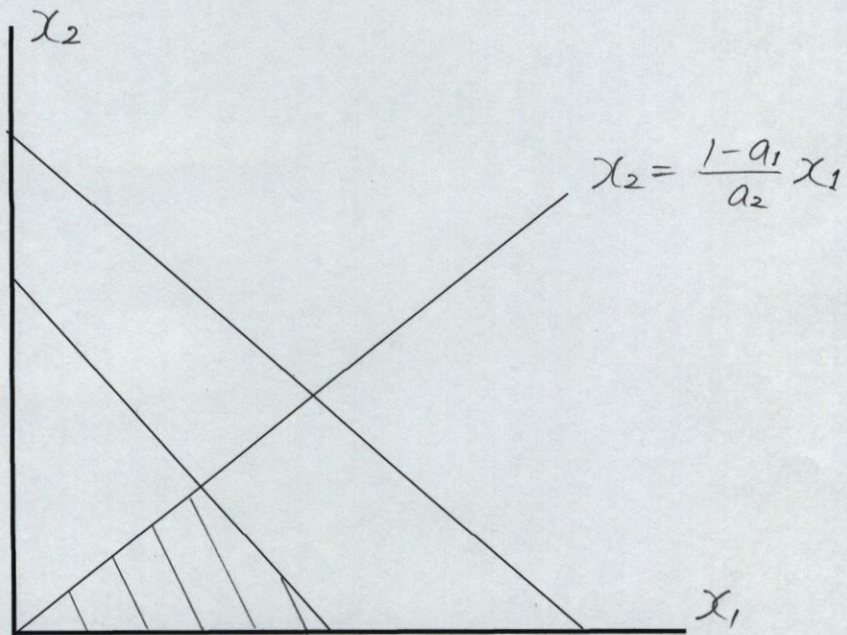
<図 1.1.b : (1.2) が効く場合>



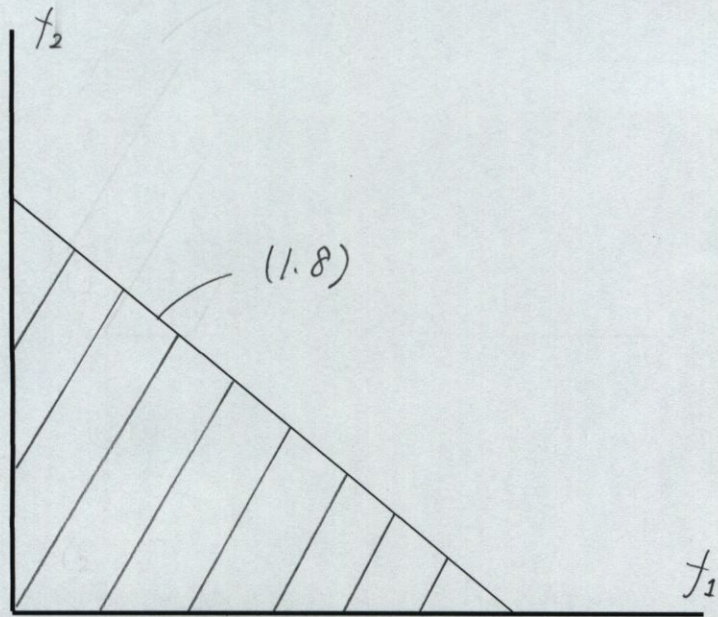
<図 1.1.c : 両方の制約が効く場合>



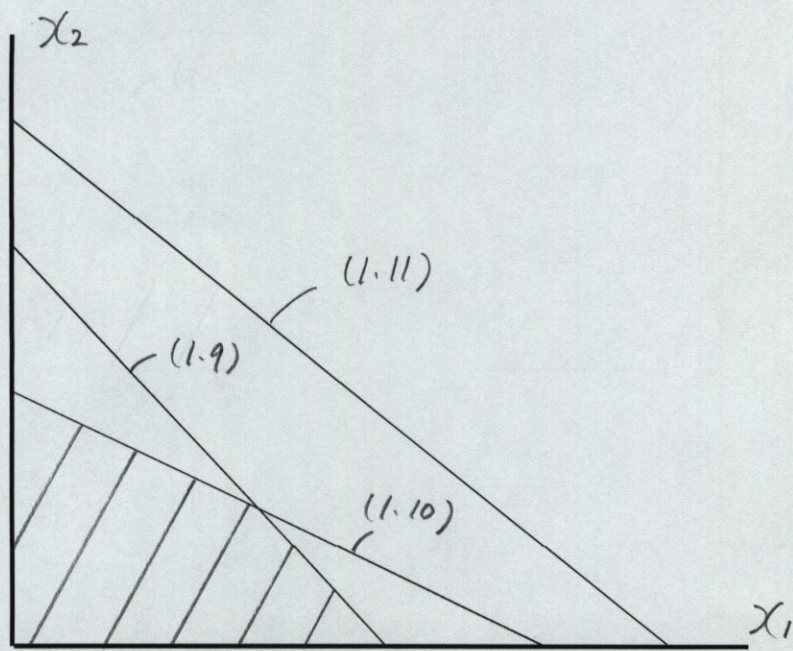
<図 1.2 : 両部門の純生産が正となる総生産の組み合わせ>



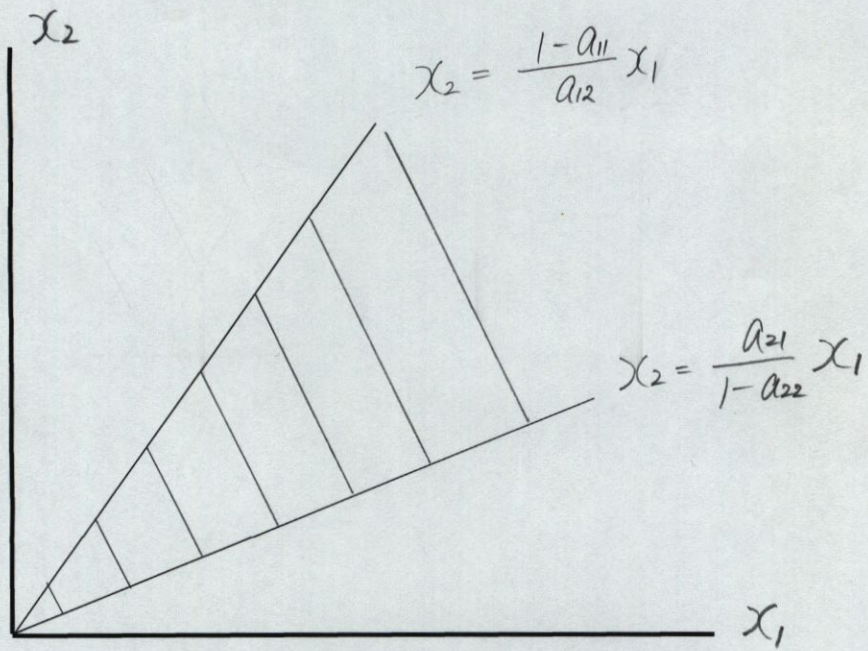
<図 1.3 : 実行可能性条件と純生産可能条件の両方を満たす総生産の組み合わせ>



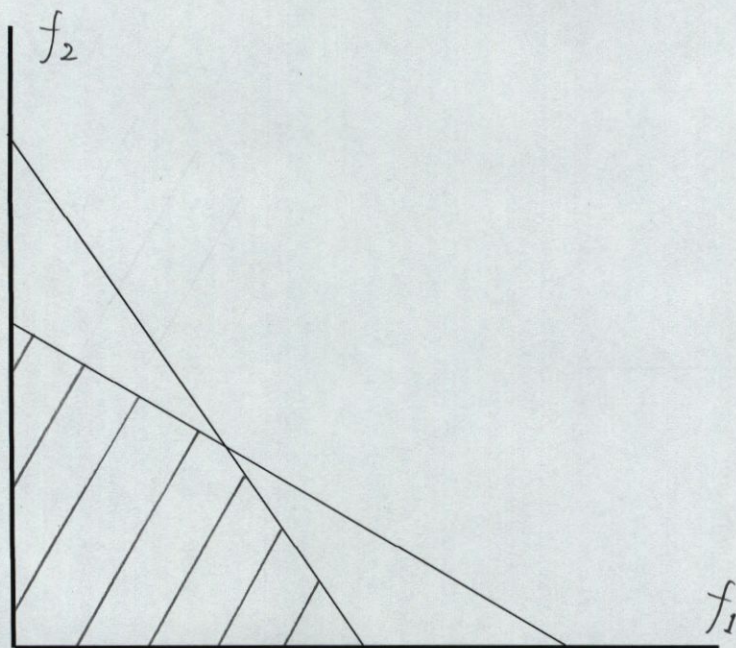
< 図 1.4 : 資本財が稀少な場合の生産可能性集合 >



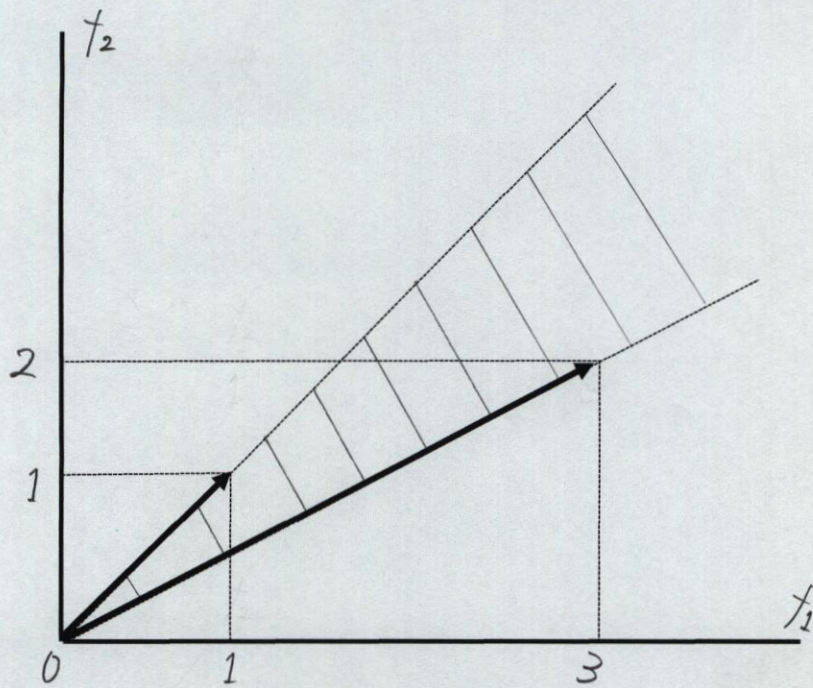
< 図 1.5 : 実行可能性条件の一例 >



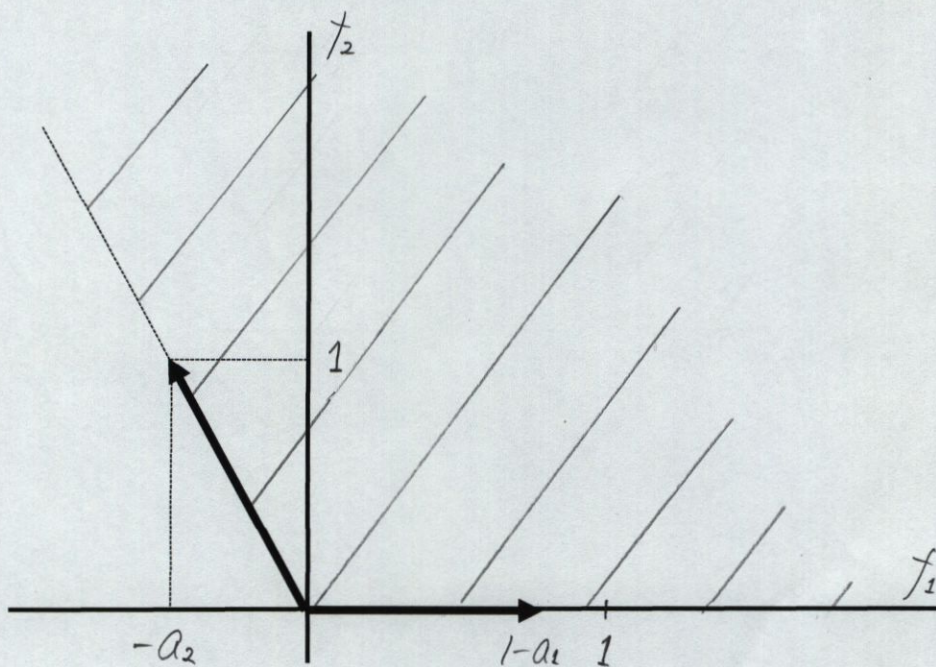
<図 1.6 : 両部門の純生産量が正となるような総生産の組み合わせ>



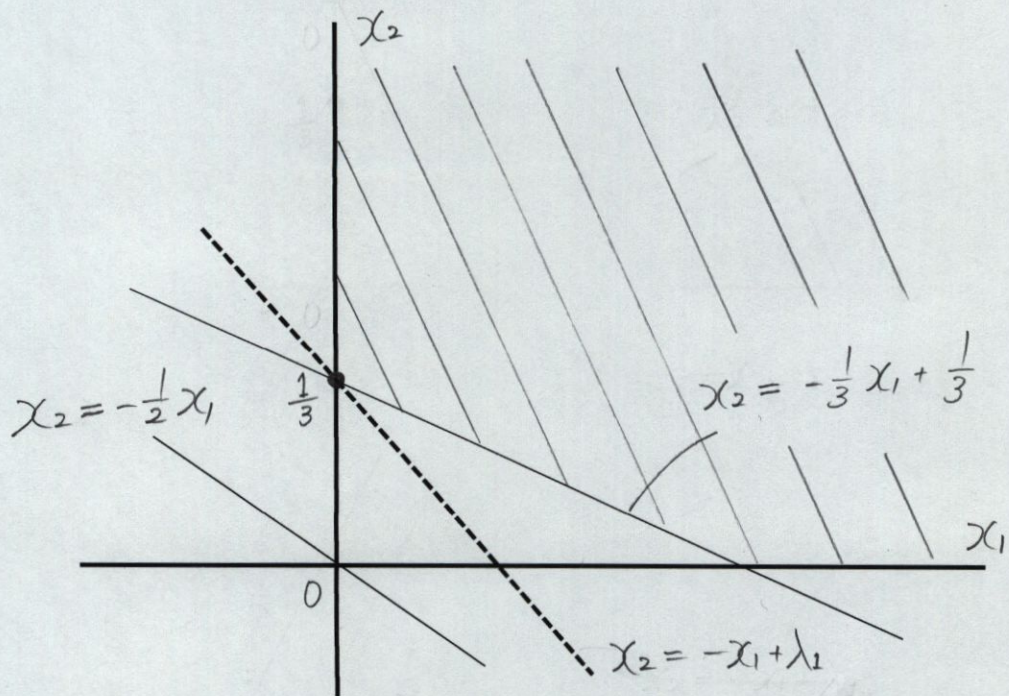
<図 1.7 : 各財が稀少な場合の生産可能性集合>



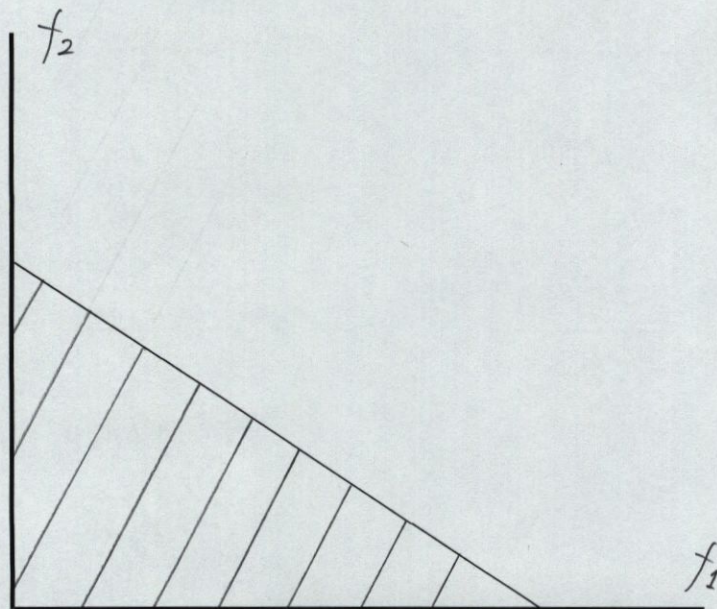
<図 1.8 : (1.26) のベクトル図>



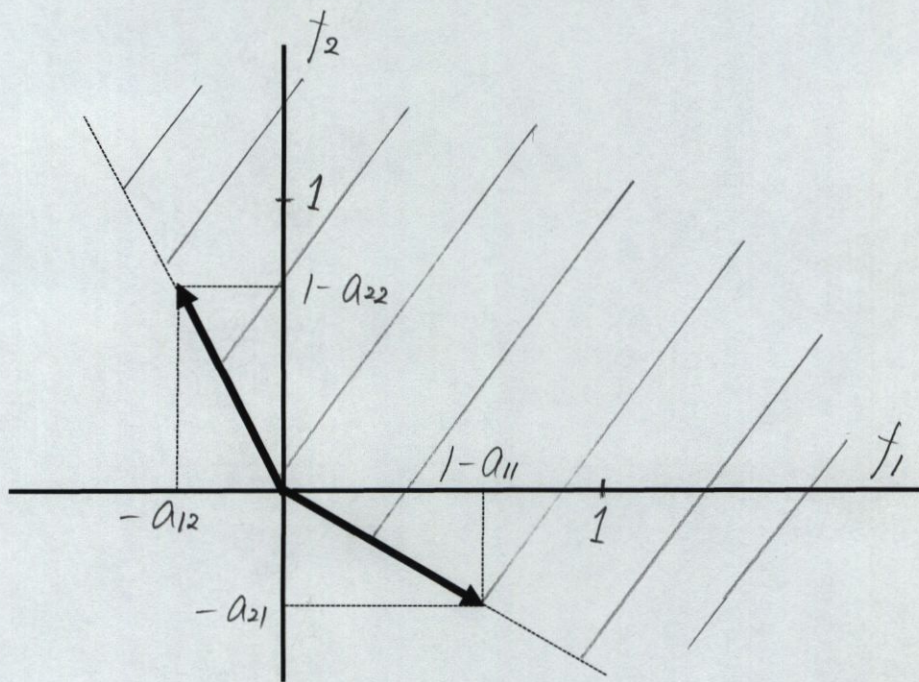
<図 1.9 : (1.27) のベクトル図>



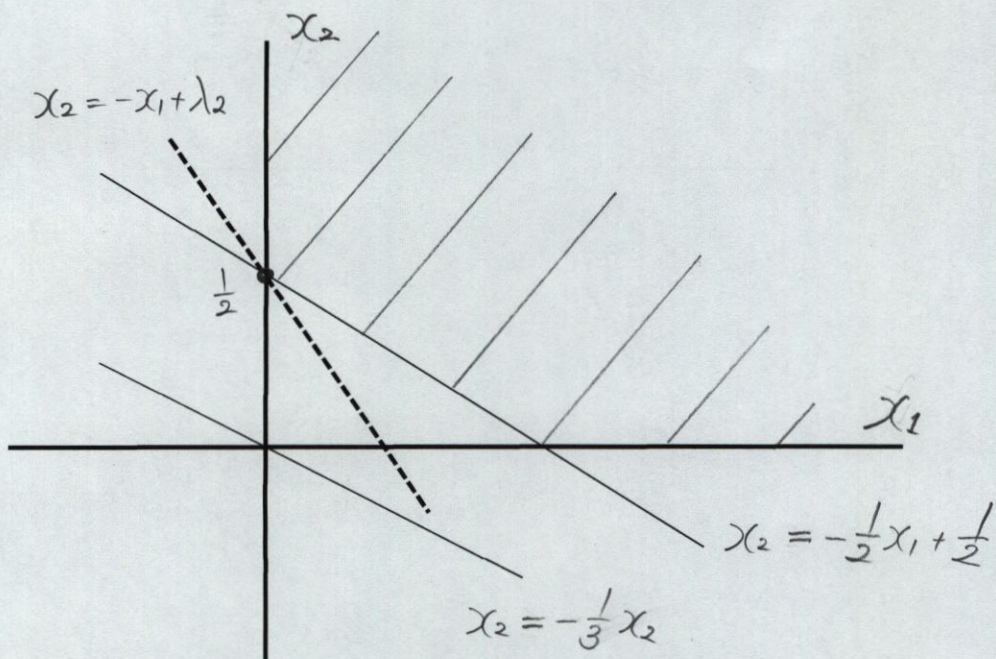
<図 1.10 : 森嶋型定義に基づく財 1 の労働価値>



<図 1.A.1 : 労働が稀少な場合の生産可能性集合>

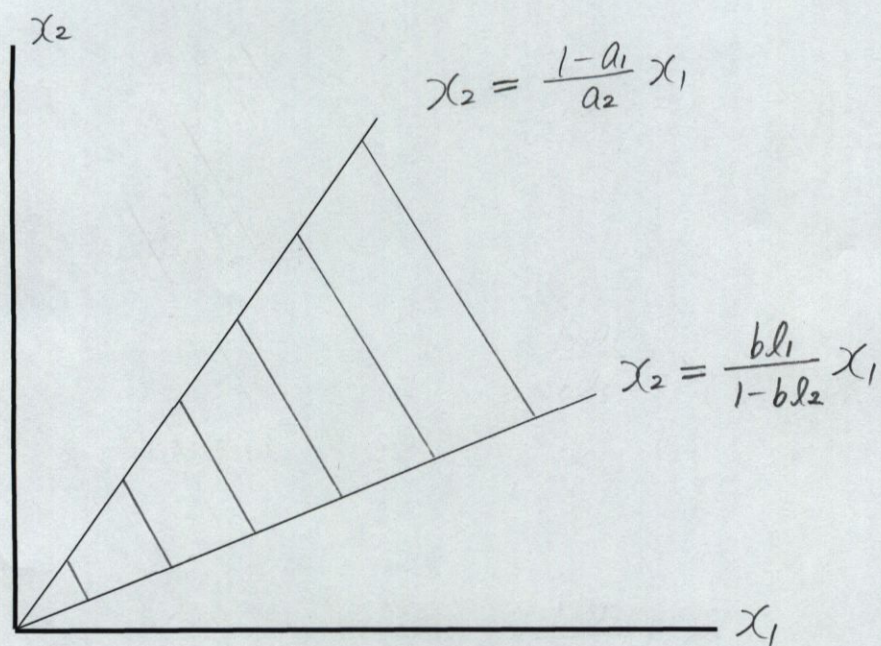


<図 1.A.2 : (1.a.2) のベクトル図>

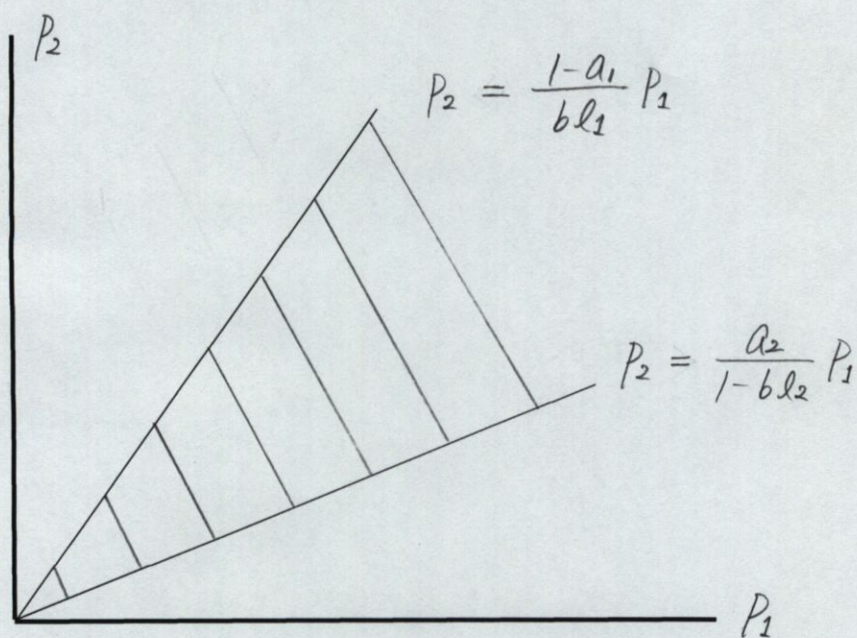


<図 1.A.3 : 森嶋型定義に基づく財 2 の労働価値>

第2章

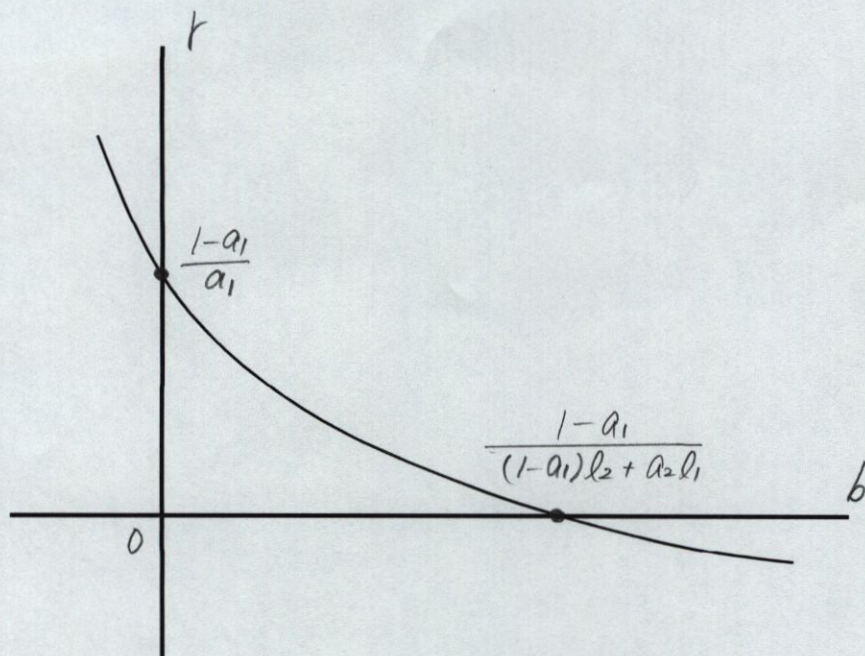


<図 2.1 : 両部門の剰余生産量が正となるような総生産の組み合わせ>



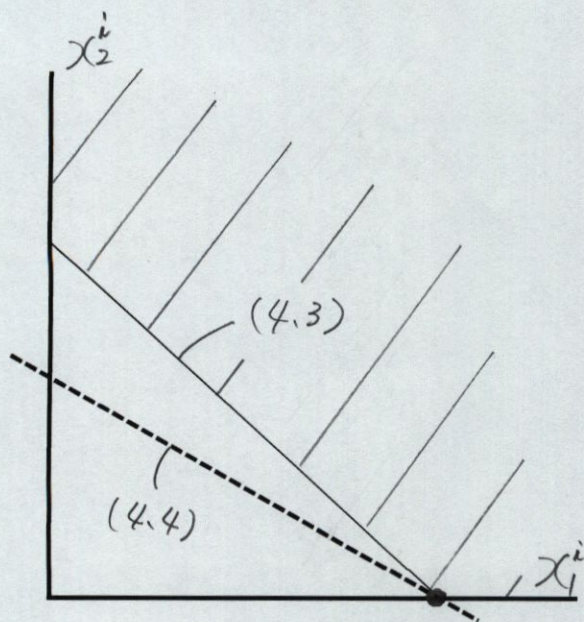
<図 2.2 : 両部門の利潤が正となるような価格の組み合わせ>

第3章

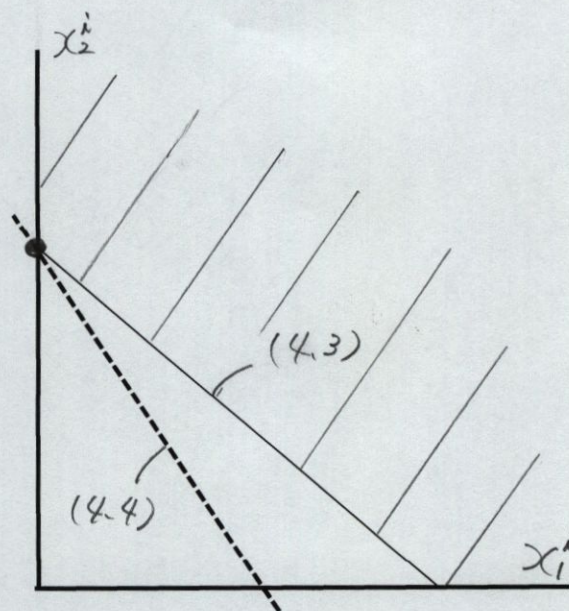


< 図 3.1 : 賃金・利潤曲線 >

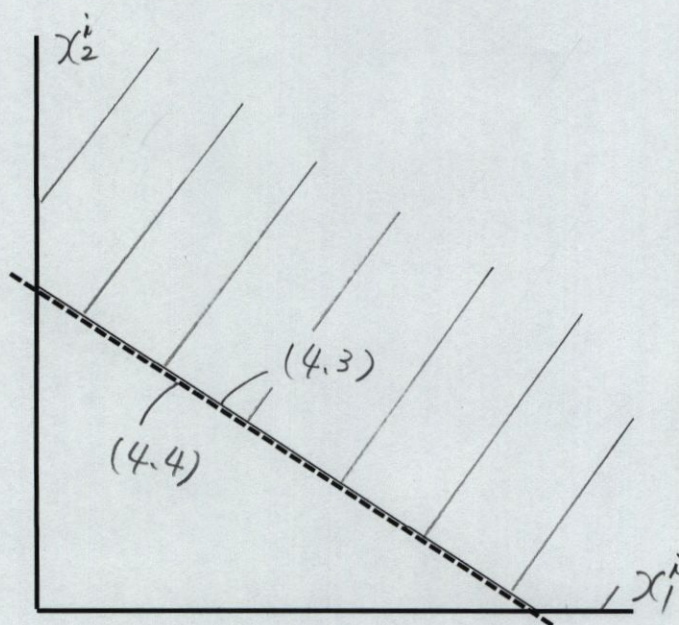
第4章



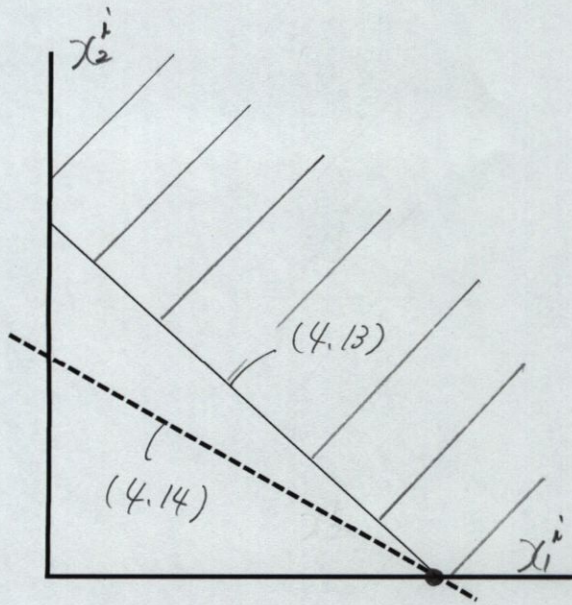
<図 4.1.a: ケース (i) >



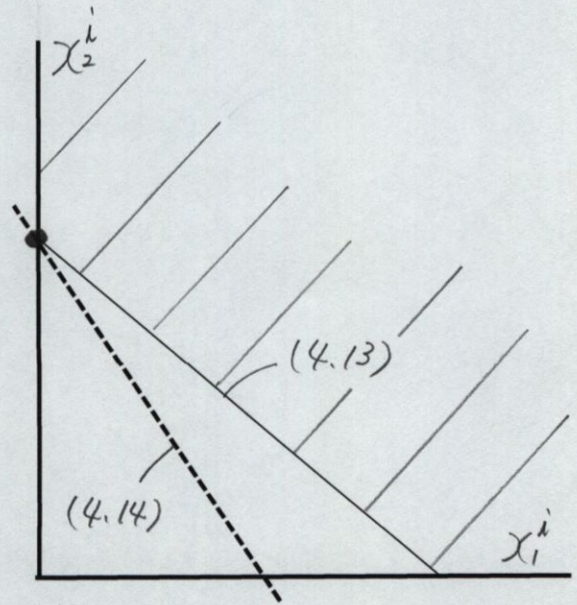
<図 4.1.b: ケース (ii) >



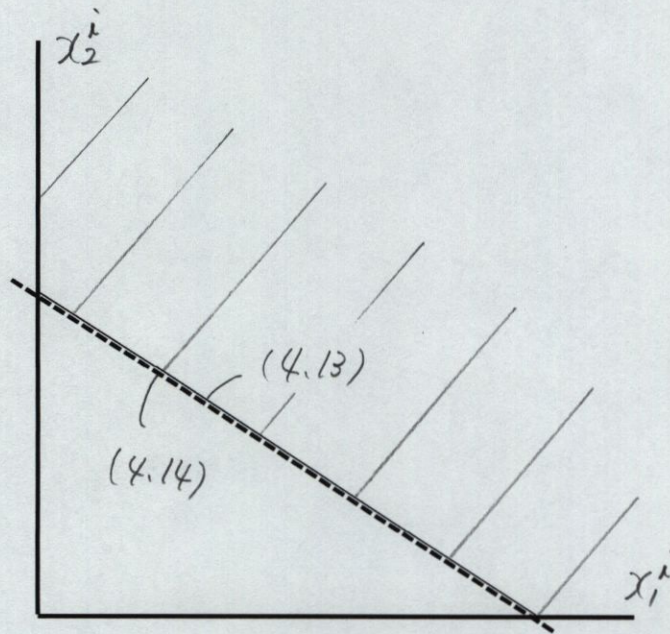
<図 4.1.c: ケース (iii) >



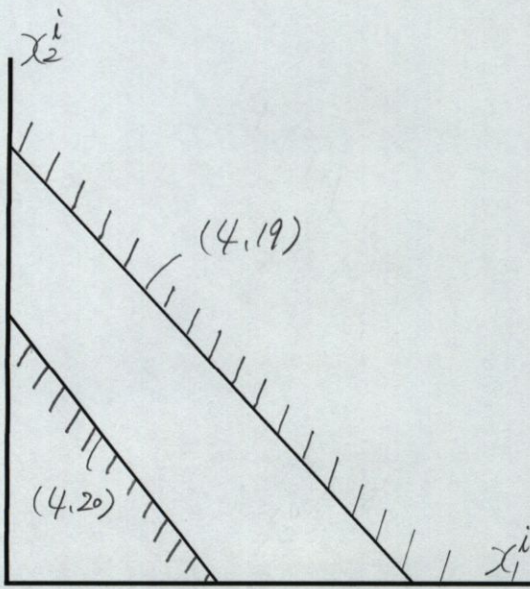
<図 4.2.a: ケース (i) >



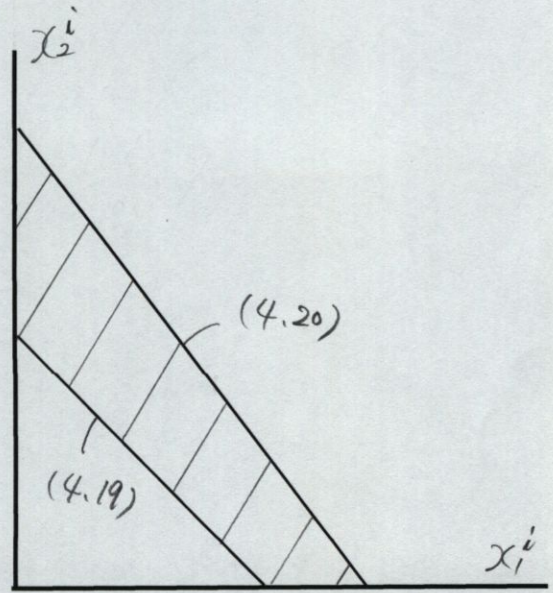
<図 4.2.b: ケース (ii) >



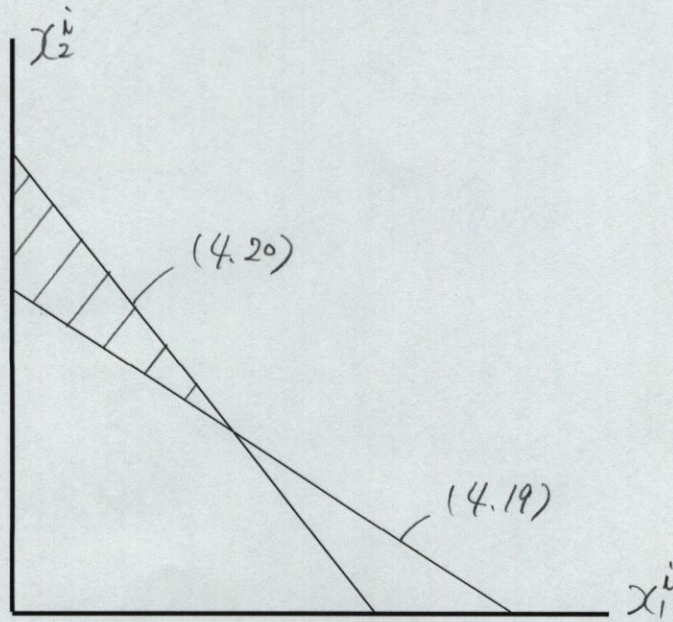
<図 4.2.c: ケース (iii) >



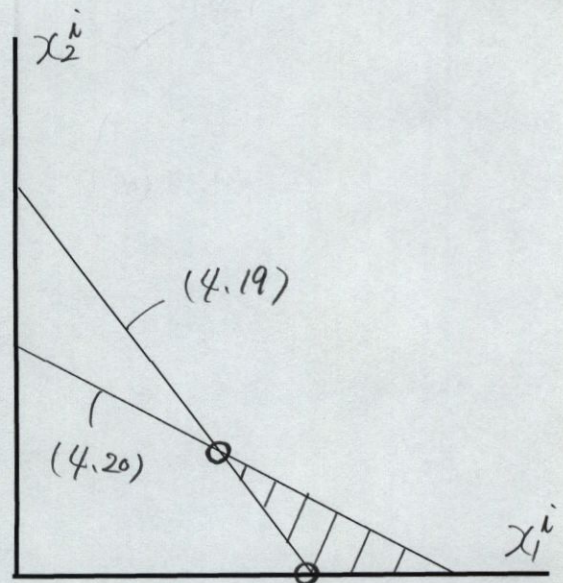
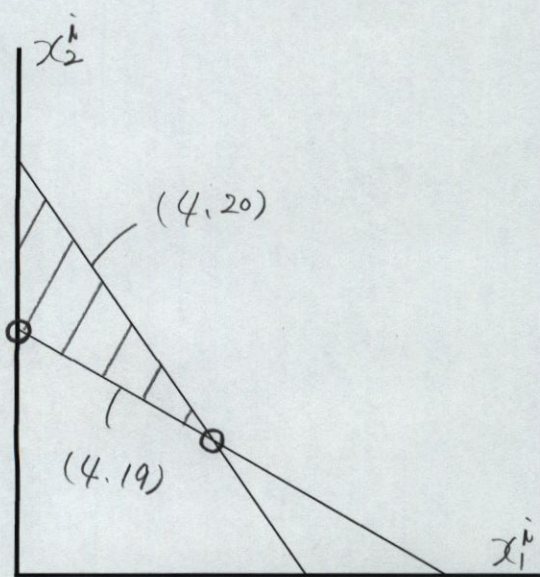
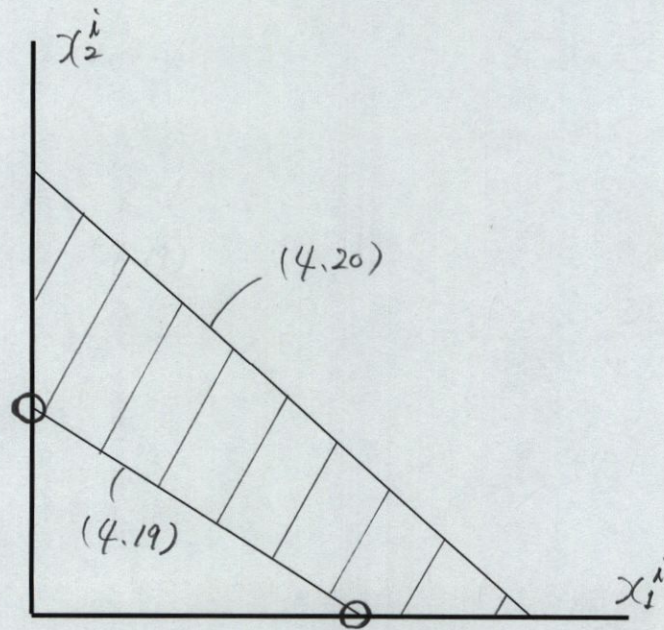
<図 4.3.a : ケース (i) >



<図 4.3.b : ケース (ii) >

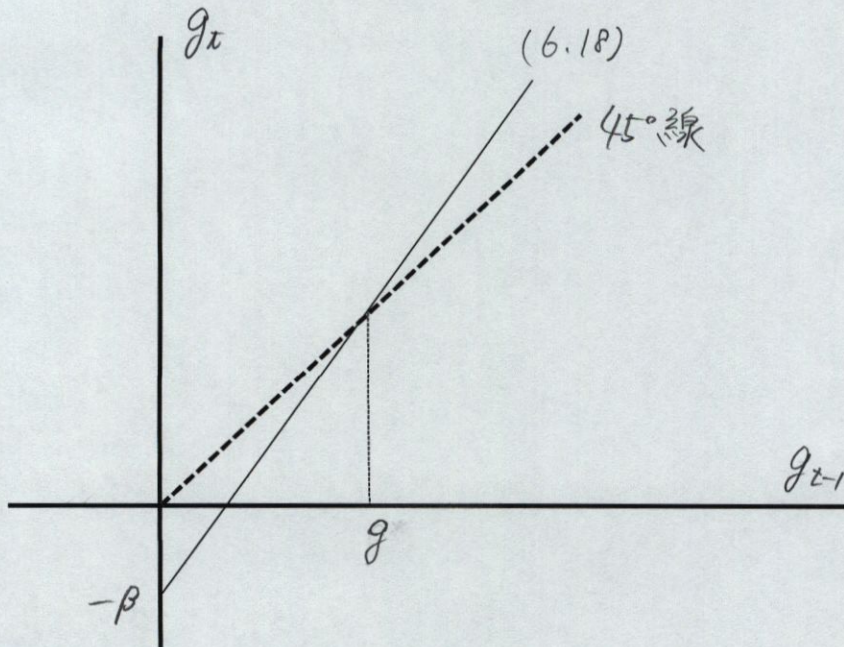


<図 4.3.c : ケース (iii) >

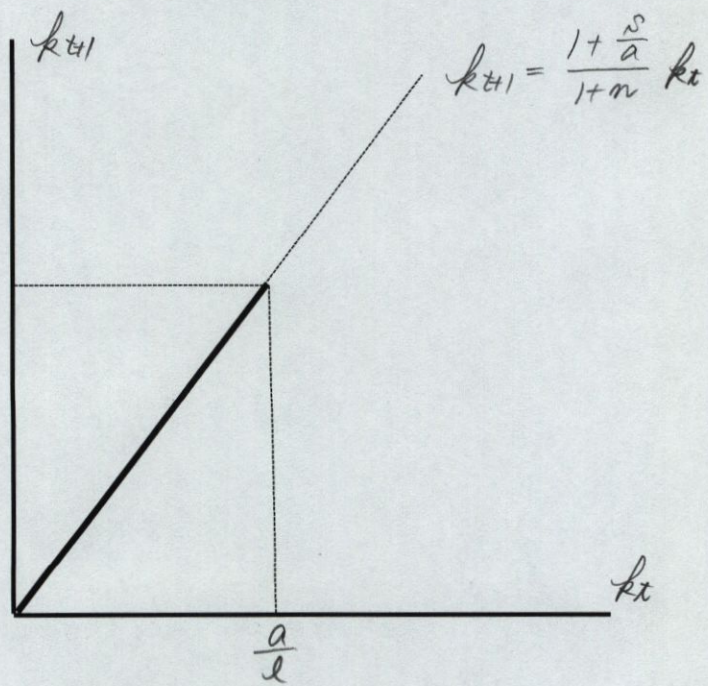


<図 4.4 : (a) と (b) を両方満足するような個人の制約集合>

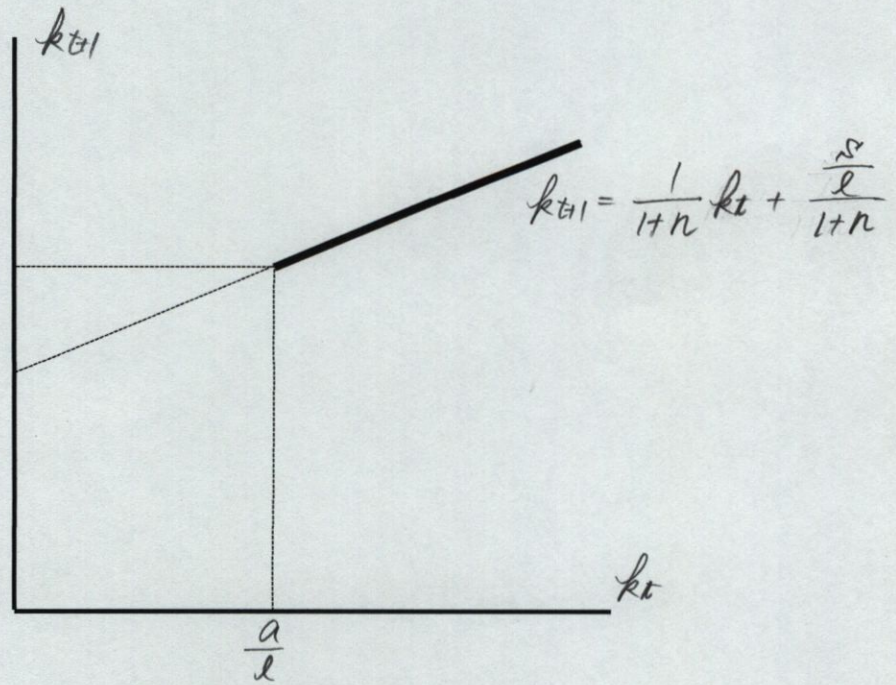
第6章



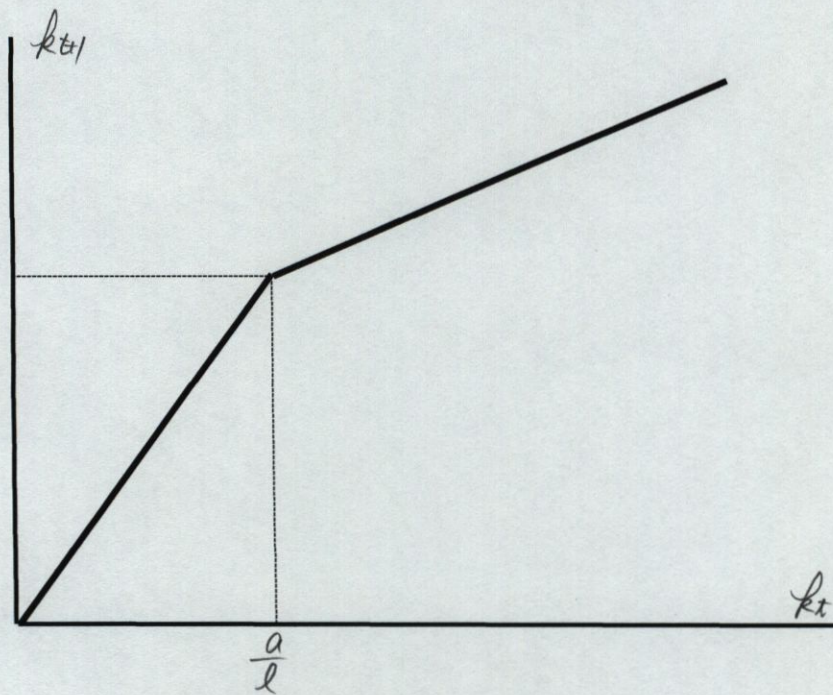
<図 6.1 : ハロッド=置塩モデル>



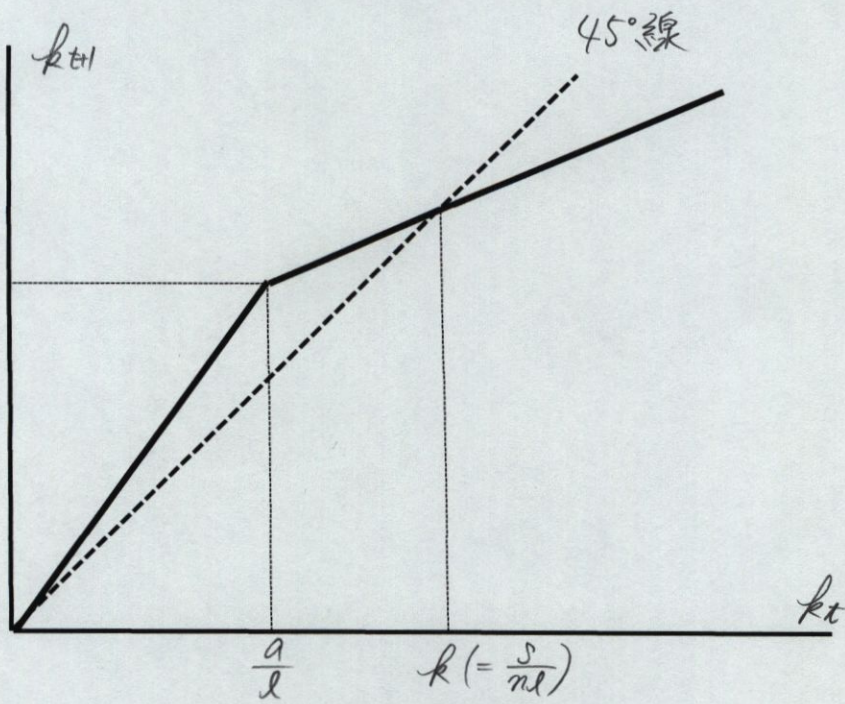
<図 6.2 : $k < a/l$ の場合の (6.35) >



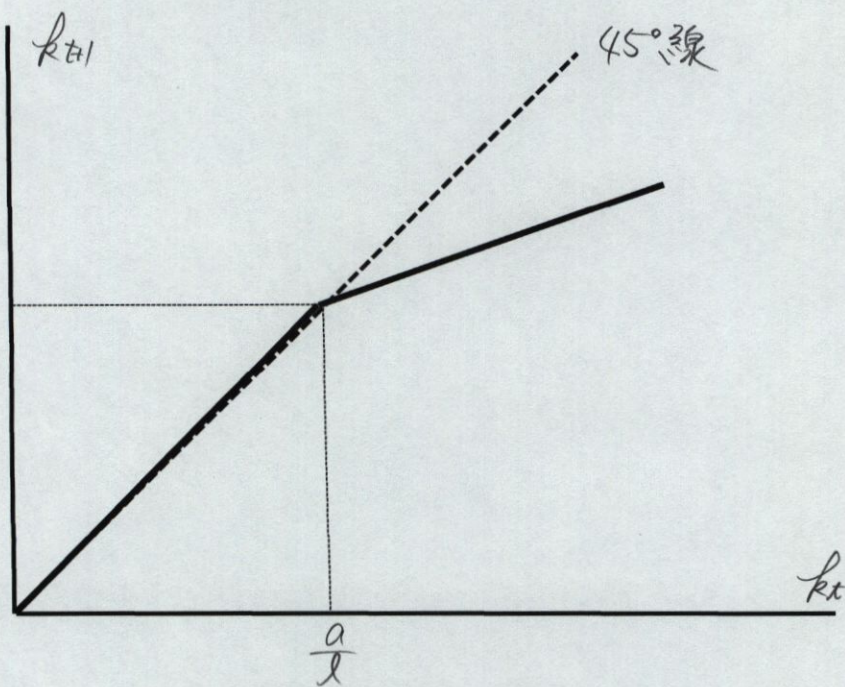
<図 6.3 : $k > a/l$ の場合の (6.35) >



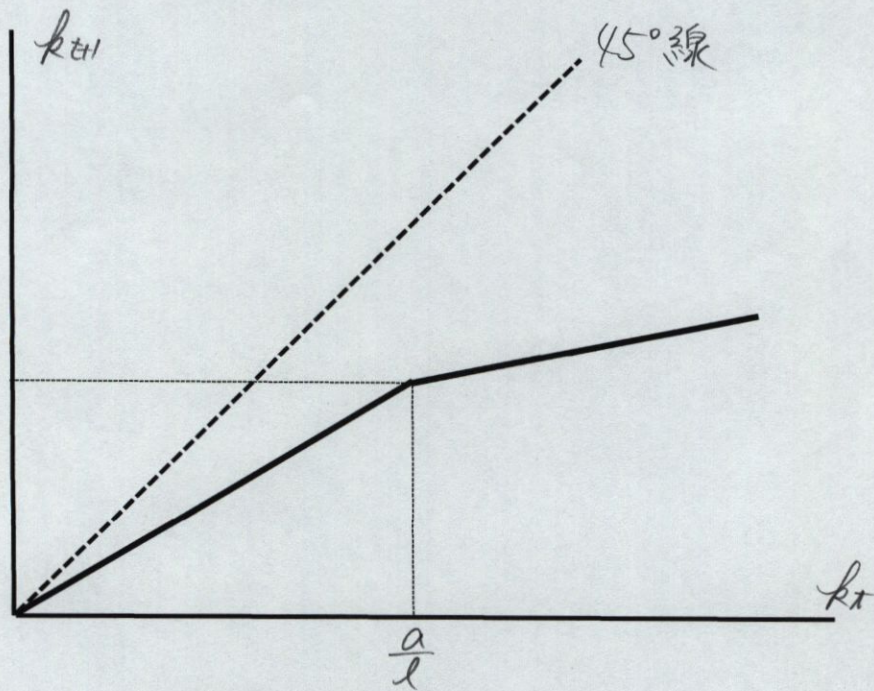
<図 6.4 : (6.35) の動学>



<図 6.5 : $s/a > n$ の場合の (6.35) >



<図 6.6 : $s/a = n$ の場合の (6.35) >



< 図 6.7 : $s/a < n$ の場合の (6.35) >